

さがみはら生物多様性 ネットワーク ニュース

発行 さがみはら生物多様性ネットワーク



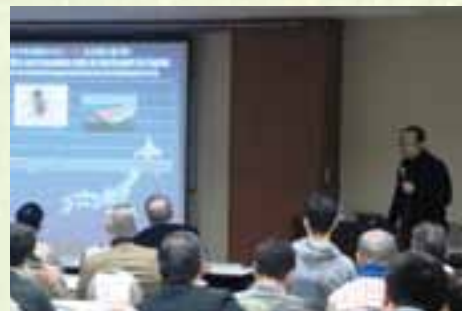
第6号

発行日

2018年3月

さがみはら生物多様性シンポジウムを開催しました

平成30年2月25日(日)、相模原市民会館にて
「わたしたちの暮らしと生物多様性～ほんとに知ってる？
外来生物のこと～」をテーマにシンポジウムを開催しました。



第1部

基調講演「外来種問題とわたしたちの暮らし」

国立環境研究所 五箇 公一 さん

現在、生物多様性の劣化が深刻な問題となっています。劣化の要因のひとつが外来種の侵入です。外来種とは、「人間の手によって本来の生息地から違う土地へ移動させられた生物種」のことですが、外来種が広がることによる影響は深刻です。島国である日本には、各地域に固有の生物が多く存在しています。しかし、外来種が在来種と交配すれば雑種が生まれ、遺伝子汚染が広がります。また、繁殖力の強い外来種が在来種の住む場所や食べ物を独占してしまうと、在来種は生きていくことができません。最終的には、日本中、地球上どこに行っても同じ生物種だらけになってしまい、遺伝子や景観の多様性が失われてしまうのです。

現在、生物多様性の劣化を防ぐため、外来種の積極的な防除が行われています。しかし、外来種が悪い存在だから防除するのではなく、防除の究極目的は生物多様性を守ることであるということをお忘れではありません。

身近な例を挙げると、アニメの影響で外来種であるアライグマをペットとして飼育することが流行したことがありました。

しかし、実際のアライグマは凶暴で、捨てられる事態が相次ぎました。その結果、アライグマは全国で繁殖し、従来の生態系に影響を及ぼしています。生物を飼う時は最後まで面倒をみる覚悟をもつべきであり、外に放すことは絶対にしてはいけないということを広めていく必要があります。

それだけではありません。ジカ熱やデング熱などの新しい感染症の広まりにも、生物多様性の劣化が関わっています。もともとこうした感染症の病原体は人間が立ち入れない自然の中に生息し、野生生物と長い歴史の中で宿主、寄生生物としての関係を築いていました。しかし、森林伐採など人間活動による生息地の破壊と、人為的な生物の移動により、病原体は人間という新たな住処に移り住もうとしています。

外来種問題は、在来種の生息にとって問題というだけでなく、人間社会の安定にも関わる問題なのです。

講演を聞いた方の感想

- ユーモアを交えつつ分かりやすい講演でとても有意義でした。
- 生物多様性の入口から学術的に難しいお話まで素人が聞いてもわかりやすく、生物多様性について、新たな視点を持つことができました。

第II部

活動事例発表

「相模原市における都市緑化推進事業について」

(公財)相模原市まち・みどり公社 伊東圭祐さん

「みどり豊かなまちづくり」を目指して事業を行っています。花のまちづくり・みどりいっぱい運動では、市民団体の方々に花苗を配布し、花壇に植栽してもらうことで花のまちづくりを進めています。

「牧野元気創生会の環境保全活動」

牧野元気創生会 志村孝夫さん

やまなみ公園へのあじさいの植栽、峰山の景観伐採など地域活性化のためのホテルを保全する活動を法政大学の学生と共に行っています。



発表後の
質疑応答
左から伊東さん、
宇賀地さん、
志村さん

「東林ふれあいの森の保全活動」

東林ふれあいの森を愛する会 宇賀地謙介さん

樹木や下草が生い茂り荒れていた森で活動が続け、陽の光が林床まで届く明るい森をよみがえらせました。貴重な植物には保護管理のための札をつけ、発生分布調査を行っています。



会員活動 紹介

日頃の活動から生物多様性に関心を

光明学園相模原高等学校 理科教諭 下口直久（個人会員）

高校生物の教科書には、「生物多様性」という言葉が出ています。しかし、生物多様性とは何かを教科書だけで伝えるのは大変難しいことです。なぜなら子どもたちが実感として生物の多様性を感じたことがないからです。そこで、学校周辺の豊かな自然を活かして生物の多様性に関心をもってもらうために授業や部活動で自然観察などを行い、生物の多様性とその保全に関心を持ってもらうよう心がけています。例えば、相模川の河川敷で、絶滅危惧植物である「カワラノギク」の保全と調査を2012年から行っています。この活動

には現役の生徒だけでなく、OBなども参加し、種まき、草取りなどを行います。また、近隣公園である「当麻山公園」の中にある菖蒲田を整備し、公園内の湧水を利用して多くの生物が生息できる場所を作ろうと、相模原市の「アダプト制度」を利用させて頂き、活動をしています。園内の整備をしたり、その場に生息する生物相を調査したりすることで身近な環境から生物の多様性とその大切さに関心をもってもらえるようにこれからも活動を続けていきたいと思えます。



当麻山公園での作業の様子



カワラノギク種まきの様子



カワラノギク

私たちの健康と生物多様性

国連生物多様性の10年市民ネットワーク代表 坂田昌子（個人会員）

人間の体内には、何十兆もの細菌が住みつき、人体にとって有益な物質を作り出したり、免疫力をつかさどったりしています。私たちの身体は一つの生態系なのです。今、この内なる生態系が多様性を失うことによる健康への影響が問題になっています。私たちは細菌・微生物を経口と皮膚から取り入れています。

子どもの時に泥だらけになって遊んだり、葉っぱを口にくわえたり…そんな自然とのふれあいが、実は私たちの内なる生態系の多様性を作り出してきたのです。自然界の多様性が失われると、当然人の体内の多様性も失われます。

自然環境の悪化や減少が、アレルギーなど様々な健康問題の増加と密接な関連がある問題が浮上し、今年の11月、エジプトで開催される生物多様性条約COP14では「健康と生物多様性」が議題となります。

自然が健康であることと人の健康はリンクしています。生物多様性の保全は、私たち、とくに子どもたちの健康を守ることに繋がります。



会員募集中!! 入会随時

詳しくは、「相模原市生物多様性ポータルサイト」または右記事務局までお問い合わせください。

相模原市 生物多様性 🔍 検索



発行者：さがみはら生物多様性ネットワーク事務局
(相模原市水みどり環境課内)

住 所：相模原市中央区中央2-11-15

電 話：042-769-8242

Eメール：midori@city.sagamihara.kanagawa.jp